

平成 28 年度 大分大学 2 次試験前期日程 (数学問題)

工・経済・教育・医学部 平成 28 年 2 月 25 日

- 工学部は, [1] ~ [4] 数 I・II・III・A・B (100 分)
- 経済学部は, [1] ~ [3], [5] 数 I・II・A・B (100 分)
- 教育学部は, [1] ~ [3] 数 I・II・A・B (80 分)
- 医学部は, [6] ~ [8] 数 I・II・III・A・B (80 分)

[1] 大きさ 1 のベクトル \vec{a} と, $\vec{0}$ でないベクトル \vec{b} のなす角を θ とする.

- (1) $|3\vec{a} + t\vec{b}|$ が最小となるような実数 t の値を $|\vec{b}|$, θ を用いて表しなさい.
- (2) $|3\vec{a} + t\vec{b}|$ は $t = -\frac{1}{2}$ のとき最小値 $2\sqrt{2}$ をとる. $|\vec{b}|$ および $\cos \theta$ の値を求めなさい.

[2] a を 0 でない実数とする. 2 つの放物線 $y = x^2$, $y = -x^2 + 2ax + \frac{1}{2a^2}$ がある.

- (1) 2 つの放物線は異なる 2 点で交わることを示しなさい.
- (2) 2 つの放物線の交点の x 座標を α , β ($\alpha < \beta$) とするとき, $\beta - \alpha$ を a の式で表しなさい.
- (3) 2 つの放物線で囲まれた部分の面積 S を a の式で表しなさい.
- (4) (3) で定めた面積 S の最小値を求めなさい.

[3] A と B の 2 つの箱がある. 箱 A には, 赤玉が 1 個, 青玉が 4 個, 黄玉が 5 個入っている. 箱 B には, 当たりくじが 3 本, はずれくじが 7 本入っている.

箱 A から玉を 1 つ取り出し, それが赤玉のときは箱 B からくじを 5 本, 青玉のときは 3 本, 黄玉のときは 2 本引くとする.

- (1) 青玉を取り出し, 当たりくじを少なくとも 1 本引く確率を求めなさい.
- (2) 当たりくじを少なくとも 1 本引く確率を求めなさい.
- (3) 当たりくじをちょうど 1 本引く確率を求めなさい.

4 2つの曲線 $y = x + 2 \cos x$ $\left(\frac{\pi}{2} \leq x \leq \frac{3}{2}\pi\right)$ と $y = x - 2 \cos x$ $\left(\frac{\pi}{2} \leq x \leq \frac{3}{2}\pi\right)$ をつないでできる曲線を C とする.

- (1) 曲線 C の概形を図示しなさい.
- (2) k を実数とする. 曲線 C と直線 $y = k$ が異なる2点で交わるための k の値の範囲を求めなさい.
- (3) 曲線 C で囲まれた部分を x 軸のまわりに1回転してできる立体の体積を求めなさい.

5 初項3の数列 $\{a_n\}$ がある. $b_n = a_{n+1} - 3a_n$ とするとき, 数列 $\{b_n\}$ は初項6, 公比3の等比数列である.

- (1) $c_n = \frac{a_n}{3^n}$ とするとき, $c_{n+1} - c_n$ を求めなさい.
- (2) a_n を n の式で表しなさい.
- (3) $S_n = \sum_{k=1}^n a_k$ とするとき, S_n を n の式で表しなさい.

6 0でない実数 r が $|r| < 1$ のとき、以下の問いに答えなさい。ただし、自然数 n に対して $\lim_{n \rightarrow \infty} nr^n = 0$, $\lim_{n \rightarrow \infty} n(n-1)r^n = 0$ である。

(1) $R_n = \sum_{k=0}^n r^k$ と $S_n = \sum_{k=0}^n kr^{k-1}$ を求めなさい。

(2) $T_n = \sum_{k=0}^n k(k-1)r^{k-2}$ を求めなさい。

(3) $\sum_{k=0}^{\infty} k^2 r^k$ を求めなさい。

7 自然数 n に対して関数 $y = 2nx - x^2$ のグラフと x 軸で囲まれた領域 (境界線を含む) R_n を考える。以下の問いに答えなさい。

(1) 領域 R_n に含まれる格子点 (x 座標と y 座標がともに整数である点) の数 S_n を求めなさい。

(2) 点 $A(0, 0)$, $B(2n, 0)$, および関数 y の頂点を結ぶ線分で囲まれた領域 (境界を含む) に含まれる格子点の数 T_n を求めなさい。

(3) $\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{T_n}{S_n}$ を求めなさい。

8 中心が原点 O で半径が a の定円 C_1 上を、半径 $\frac{a}{4}$ の円 C_2 が内接しながらすべることなく回転する。円 C_2 上の点 P は最初に点 $A(a, 0)$ にあるとする。円 C_2 の中心を B とするとき、以下の問いに答えなさい。

(1) $\angle AOB = \theta$ とする。 \overrightarrow{BP} を a, θ で表しなさい。

(2) \overrightarrow{OP} を a, θ で表しなさい。

(3) $0 \leq \theta \leq 2\pi$ のとき、動点 P が移動する距離を求めなさい。

正解

1 (1) $|\vec{a}| = 1$, $\vec{a} \cdot \vec{b} = |\vec{a}||\vec{b}| \cos \theta = |\vec{b}| \cos \theta$ であるから

$$\begin{aligned} |3\vec{a} + t\vec{b}|^2 &= 9|\vec{a}|^2 + 6t\vec{a} \cdot \vec{b} + t^2|\vec{b}|^2 \\ &= |\vec{b}|^2 t^2 + 6t|\vec{b}| \cos \theta + 9 \\ &= |\vec{b}|^2 \left(t + \frac{3 \cos \theta}{|\vec{b}|} \right)^2 - 9 \cos^2 \theta + 9 \end{aligned}$$

$|3\vec{a} + t\vec{b}|^2$ が最小のとき, $|3\vec{a} + t\vec{b}|$ は最小となる.

よって, $t = -\frac{3 \cos \theta}{|\vec{b}|}$ のとき, $|3\vec{a} + t\vec{b}|$ は最小となる.

(2) $|3\vec{a} + t\vec{b}|$ が $t = -\frac{1}{2}$ のとき, 最小値 $2\sqrt{2}$ をとるから, (1) の結果より

$$-\frac{3 \cos \theta}{|\vec{b}|} = -\frac{1}{2}, \quad -9 \cos^2 \theta + 9 = (2\sqrt{2})^2$$

ゆえに $|\vec{b}| = 6 \cos \theta > 0$, $9 \cos^2 \theta = 1$ よって $\cos \theta = \frac{1}{3}$, $|\vec{b}| = 2$

2 (1) 2つの放物線 $y = x^2$, $y = -x^2 + 2ax + \frac{1}{2a^2}$ の共有点の x 座標は

$$x^2 = -x^2 + 2ax + \frac{1}{2a^2} \quad \text{ゆえに} \quad 2x^2 - 2ax - \frac{1}{2a^2} = 0 \quad \dots (*)$$

方程式 (*) の判別式を D とすると

$$D/4 = (-a)^2 - 2 \cdot \left(-\frac{1}{2a^2} \right) = a^2 + \frac{1}{a^2} > 0$$

よって, 2つの放物線は, 異なる2点で交わる.

(2) 方程式 (*) の解と係数の関係により $\alpha + \beta = a$, $\alpha\beta = -\frac{1}{4a^2}$ $\dots (**)$

$$\begin{aligned} \text{したがって} \quad (\beta - \alpha)^2 &= (\alpha + \beta)^2 - 4\alpha\beta \\ &= a^2 - 4 \left(-\frac{1}{4a^2} \right) = a^2 + \frac{1}{a^2} \end{aligned}$$

$\alpha < \beta$ より, $\beta - \alpha > 0$ であるから $\beta - \alpha = \sqrt{a^2 + \frac{1}{a^2}}$

(3) (*), (**) より

$$\begin{aligned} 2x^2 - 2ax - \frac{1}{2a^2} &= 2 \left(x^2 - ax - \frac{1}{4a^2} \right) \\ &= 2 \{ x^2 - (\alpha + \beta)x + \alpha\beta \} \\ &= 2(x - \alpha)(x - \beta) \end{aligned}$$

$\alpha \leq x \leq \beta$ において, $y = -x^2 + 2ax + \frac{1}{2a^2}$ は $y = x^2$ の上側にあるから

$$\begin{aligned} S &= \int_{\alpha}^{\beta} \left\{ \left(-x^2 + 2ax + \frac{1}{2a^2} \right) - x^2 \right\} dx \\ &= - \int_{\alpha}^{\beta} \left(2x^2 - 2ax - \frac{1}{2a^2} \right) dx \\ &= -2 \int_{\alpha}^{\beta} (x - \alpha)(x - \beta) dx = -2 \left\{ -\frac{1}{6}(\beta - \alpha)^3 \right\} \\ &= \frac{1}{3}(\beta - \alpha)^3 = \frac{1}{3} \left(a^2 + \frac{1}{a^2} \right)^{\frac{3}{2}} \end{aligned}$$

(4) 相加平均・相乗平均の関係により

$$a^2 + \frac{1}{a^2} \geq 2\sqrt{a^2 \cdot \frac{1}{a^2}} = 2$$

上式において等号が成立するのは $a^2 = \frac{1}{a^2}$ すなわち $a = \pm 1$

$$\text{したがって} \quad S = \frac{1}{3} \left(a^2 + \frac{1}{a^2} \right)^{\frac{3}{2}} \geq \frac{1}{3} \cdot 2^{\frac{3}{2}} = \frac{2\sqrt{2}}{3}$$

よって $a = \pm 1$ のとき, S は最小値 $\frac{2\sqrt{2}}{3}$ をとる.

3 (1) 箱 A から青玉を取り出す確率は $\frac{4}{10} = \frac{2}{5}$

箱 B からくじ 3 本引くとき、少なくとも当たりくじを 1 本引く確率は

$$1 - \frac{{}_7C_3}{{}_{10}C_3} = \frac{17}{24}$$

よって、求める確率は $\frac{2}{5} \times \frac{17}{24} = \frac{17}{60}$

(2) (1) と同様に、箱 A から赤玉を取り出し、箱 B から少なくとも当たりくじを 1 本引く確率は

$$\frac{1}{10} \left(1 - \frac{{}_7C_5}{{}_{10}C_5} \right) = \frac{11}{120}$$

また、箱 A から黄玉を取り出し、箱 B から少なくとも当たりくじを 1 本引く確率は

$$\frac{5}{10} \left(1 - \frac{{}_7C_2}{{}_{10}C_2} \right) = \frac{4}{15}$$

よって、求める確率は、これと (1) の結果により

$$\frac{11}{120} + \frac{17}{60} + \frac{4}{15} = \frac{77}{120}$$

(3) 箱 A から赤玉を取り出し、箱 B から当たりくじを 1 本引く確率は

$$\frac{1}{10} \times \frac{{}_3C_1 \times {}_7C_4}{{}_{10}C_5} = \frac{1}{24}$$

箱 A から青玉を取り出し、箱 B から当たりくじを 1 本引く確率は

$$\frac{4}{10} \times \frac{{}_3C_1 \times {}_7C_2}{{}_{10}C_3} = \frac{21}{100}$$

箱 A から黄玉を取り出し、箱 B から当たりくじを 1 本引く確率は

$$\frac{5}{10} \times \frac{{}_3C_1 \times {}_7C_1}{{}_{10}C_2} = \frac{7}{30}$$

よって、求める確率は $\frac{1}{24} + \frac{21}{100} + \frac{7}{30} = \frac{97}{200}$

4 (1) 2つの曲線を次のようにおく.

$$C_1: y = x + 2 \cos x \quad \left(\frac{\pi}{2} \leq x \leq \frac{3\pi}{2} \right)$$

$$C_2: y = x - 2 \cos x \quad \left(\frac{\pi}{2} \leq x \leq \frac{3\pi}{2} \right)$$

C_1 について $y' = 1 - 2 \sin x$, $y'' = -2 \cos x \geq 0$

x	$\frac{\pi}{2}$	\dots	$\frac{5\pi}{6}$	\dots	$\frac{3\pi}{2}$
y'		-	0	+	
y	$\frac{\pi}{2}$	\searrow	極小	\nearrow	$\frac{3\pi}{2}$

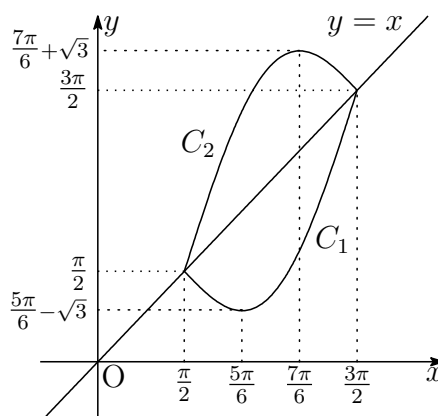
$x = \frac{5\pi}{6}$ で極小値 $\frac{5\pi}{6} - \sqrt{3}$ をとる. 下に凸.

また, C_2 について $y' = 1 + 2 \sin x$, $y'' = 2 \cos x \leq 0$

x	$\frac{\pi}{2}$	\dots	$\frac{7\pi}{6}$	\dots	$\frac{3\pi}{2}$
y'		+	0	-	
y	$\frac{\pi}{2}$	\nearrow	極大	\searrow	$\frac{3\pi}{2}$

$x = \frac{7\pi}{6}$ で極大値 $\frac{7\pi}{6} + \sqrt{3}$ をとる. 上に凸.

以上の結果から, グラフの概形は次のようになる.



(2) C の概形から, $y = k$ が異なる 2 点で交わるための k の値の範囲は

$$\frac{5\pi}{6} - \sqrt{3} < k < \frac{7\pi}{6} + \sqrt{3}$$

(3) $\frac{5\pi}{6} - \sqrt{3} > 0$ であるから、求める回転体の体積を V とすると

$$\begin{aligned} V &= \pi \int_{\frac{\pi}{2}}^{\frac{3\pi}{2}} \{(x - 2 \cos x)^2 - (x + 2 \cos x)^2\} dx \\ &= 8\pi \int_{\frac{\pi}{2}}^{\frac{3\pi}{2}} (-x \cos x) dx \\ &= 8\pi \left[-x \sin x - \cos x \right]_{\frac{\pi}{2}}^{\frac{3\pi}{2}} = 16\pi^2 \end{aligned}$$

補足 C_1 と C_2 で囲まれ部分の面積 S は $S = 8$

C_1 と C_2 は点 (π, π) に関して対称で、この図形の重心である。

したがって、 x 軸から重心までの距離 h は $h = \pi$

よって、求める回転体の体積 V は、パップス・ギュルダンの定理¹により

$$V = 2\pi h S = 2\pi \cdot \pi \cdot 8 = 16\pi^2$$

5 (1) $\{b_n\}$ は初項 6、公比 3 の等比数列であるから

$$b_n = 6 \cdot 3^{n-1} = 2 \cdot 3^n$$

$b_n = a_{n+1} - 3a_n$ に上の結果を代入すると

$$2 \cdot 3^n = a_{n+1} - 3a_n \quad \text{ゆえに} \quad \frac{a_{n+1}}{3^{n+1}} - \frac{a_n}{3^n} = \frac{2}{3}$$

$$c_n = \frac{a_n}{3^n} \text{ であるから} \quad c_{n+1} - c_n = \frac{2}{3}$$

(2) $c_1 = \frac{a_1}{3} = \frac{3}{3} = 1$ 、および (1) の結果から、 $\{c_n\}$ は初項 1、公差 $\frac{2}{3}$ の等差数列であるから

$$c_n = 1 + \frac{2}{3}(n-1) = \frac{1}{3}(2n+1)$$

$$c_n = \frac{a_n}{3^n} \text{ より, } a_n = 3^n c_n \text{ であるから}$$

$$a_n = 3^n \cdot \frac{1}{3}(2n+1) = (2n+1) \cdot 3^{n-1}$$

¹http://kumamoto.s12.xrea.com/nyusi/Qdai_ri_2012.pdf の **1** を参照。

(3) $b_n = 6 \cdot 3^{n-1}$ および $b_n = a_{n+1} - 3a_n$ より

$$\begin{aligned} \sum_{k=1}^n 6 \cdot 3^{k-1} &= \sum_{k=1}^n (a_{k+1} - 3a_k) \\ 3(3^n - 1) &= \sum_{k=1}^n a_{k+1} - 3 \sum_{k=1}^n a_k \quad \cdots (*) \end{aligned}$$

このとき、条件および(2)の結果から

$$\begin{aligned} \sum_{k=1}^n a_k &= S_n, \\ \sum_{k=1}^n a_{k+1} &= S_n + a_{n+1} - a_1 \\ &= S_n + (2n + 3) \cdot 3^n - 3 \end{aligned}$$

上の2式を(*)に代入すると

$$3(3^n - 1) = \{S_n + (2n + 3) \cdot 3^n - 3\} - 3S_n$$

これを S_n について解くと $S_n = n \cdot 3^n$

6 (1) $(1 - r) \sum_{k=0}^n r^k = 1 - r^{n+1}$ より, $|r| < 1$ のとき

$$R_n = \sum_{k=0}^n r^k = \frac{1 - r^{n+1}}{1 - r}$$

次に, S_n について

$$S_n = \sum_{k=0}^n k r^{k-1} \quad \cdots \textcircled{1}, \quad S_n = \sum_{k=1}^{n+1} (k-1) r^{k-2} \quad \cdots \textcircled{2}$$

とおくと, $\textcircled{1} - \textcircled{2} \times r$ より ($r \neq 1$)

$$\begin{aligned} S_n - rS_n &= \sum_{k=0}^n k r^{k-1} - r \sum_{k=1}^{n+1} (k-1) r^{k-2} \\ (1-r)S_n &= -nr^n + \sum_{k=1}^n \{k r^{k-1} - r(k-1) r^{k-2}\} \\ &= -nr^n + \sum_{k=1}^n r^{k-1} = -nr^n + \frac{1 - r^n}{1 - r} \end{aligned}$$

よって $S_n = -\frac{nr^n}{1-r} + \frac{1-r^n}{(1-r)^2}$

(2) T_n について

$$T_n = \sum_{k=0}^n k(k-1)r^{k-2} \quad \dots \textcircled{3}, \quad T_n = \sum_{k=1}^{n+1} (k-1)(k-2)r^{k-3} \quad \dots \textcircled{4}$$

とおくと, $\textcircled{3} - \textcircled{4} \times r$ より, $\textcircled{2}$ に注意して ($r \neq 1$)

$$\begin{aligned} T_n - rT_n &= \sum_{k=0}^n k(k-1)r^{k-2} - r \sum_{k=1}^{n+1} (k-1)(k-2)r^{k-3} \\ (1-r)T_n &= -n(n-1)r^{n-1} + 2 \sum_{k=1}^n (k-1)r^{k-2} \\ &= -n(n-1)r^{n-1} - 2nr^{n-1} + 2 \sum_{k=1}^{n+1} (k-1)r^{k-2} \\ &= -n(n+1)r^{n-1} + 2S_n \\ &= -n(n+1)r^{n-1} - \frac{2nr^n}{1-r} + \frac{2(1-r^n)}{(1-r)^2} \end{aligned}$$

$$\text{よって} \quad T_n = -\frac{n(n+1)r^{n-1}}{1-r} - \frac{2nr^n}{(1-r)^2} + \frac{2(1-r^n)}{(1-r)^3}$$

(3) $|r| < 1$ のとき, $\lim_{n \rightarrow \infty} nr^n = 0$, $\lim_{n \rightarrow \infty} n(n-1)r^n = 0$ であるから

$$\lim_{n \rightarrow \infty} n(n+1)r^{n-1} = \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{n(n-1)r^n + 2nr^n}{r} = 0$$

上の諸式により

$$\begin{aligned} \lim_{n \rightarrow \infty} S_n &= \lim_{n \rightarrow \infty} \left\{ -\frac{nr^n}{1-r} + \frac{1-r^n}{(1-r)^2} \right\} = \frac{1}{(1-r)^2} \\ \lim_{n \rightarrow \infty} T_n &= \lim_{n \rightarrow \infty} \left\{ -\frac{n(n+1)r^{n-1}}{1-r} - \frac{2nr^n}{(1-r)^2} + \frac{2(1-r^n)}{(1-r)^3} \right\} = \frac{2}{(1-r)^3} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{よって} \quad \sum_{k=0}^{\infty} k^2 r^k &= r^2 \sum_{k=0}^{\infty} k(k-1)r^{k-2} + r \sum_{k=0}^{\infty} kr^{k-1} \\ &= r^2 \times \frac{2}{(1-r)^3} + r \times \frac{1}{(1-r)^2} = \frac{r(1+r)}{(1-r)^3} \end{aligned}$$

別解 $f(r) = \sum_{k=0}^{\infty} r^k = \frac{1}{1-r}$ とおくと ($0 < |r| < 1$)

$$f'(r) = \sum_{k=0}^{\infty} k r^{k-1} = \frac{1}{(1-r)^2}, \quad f''(r) = \sum_{k=0}^{\infty} k(k-1)r^{k-2} = \frac{2}{(1-r)^3}$$

したがって

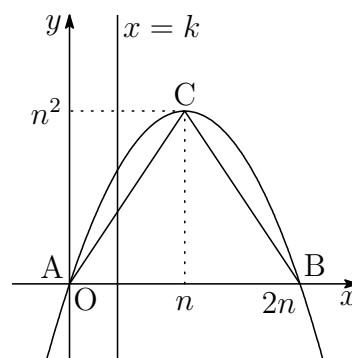
$$\begin{aligned} \sum_{k=0}^{\infty} k^2 r^k &= \sum_{k=0}^{\infty} \{k(k-1) + k\} r^k \\ &= r^2 \sum_{k=0}^{\infty} k(k-1)r^{k-2} + r \sum_{k=0}^{\infty} k r^{k-1} \\ &= r^2 f''(r) + r f'(r) = \frac{2r^2}{(1-r)^3} + \frac{r}{(1-r)^2} = \frac{r(1+r)}{(1-r)^3} \end{aligned}$$

- 7 (1) 関数 $y = 2nx - x^2 = -(x-n)^2 + n^2$ のグラフの頂点を C とすると $C(n, n^2)$

R_n に含まれる直線 $x = k$ (k は整数) 上の格子点の個数は,

$$-(k-n)^2 + n^2 + 1$$

グラフは直線 $x = n$ に関して対称であるから



$$\begin{aligned} S_n &= 2 \sum_{k=0}^{n-1} \{-(k-n)^2 + n^2 + 1\} + n^2 + 1 \\ &= 2 \sum_{k=1}^n (-k^2 + n^2 + 1) + n^2 + 1 \\ &= 2 \left\{ -\frac{1}{6}n(n+1)(2n+1) + n(n^2+1) \right\} + n^2 + 1 \\ &= \frac{4}{3}n^3 + \frac{5}{3}n + 1 \end{aligned}$$

- (2) 直線 AC の傾きは n であるから, (1) と同様に直線 $x = k$ (k は整数) 上の格子点の個数は, $nk + 1$ であるから

$$\begin{aligned}
 T_n &= 2 \sum_{k=0}^{n-1} (nk + 1) + n^2 + 1 \\
 &= 2 \sum_{k=1}^n \{n(k-1) + 1\} + n^2 + 1 \\
 &= 2 \sum_{k=1}^n (nk - n + 1) + n^2 + 1 \\
 &= 2 \left\{ n \times \frac{1}{2} n(n+1) + (-n+1)n \right\} + n^2 + 1 \\
 &= n^3 + 2n + 1
 \end{aligned}$$

- (3) (1), (2) の結果から

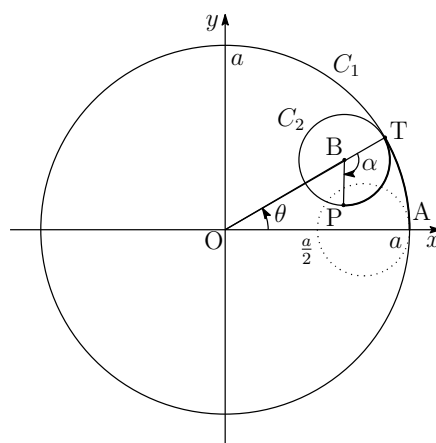
$$\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{T_n}{S_n} = \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{n^3 + 2n + 1}{\frac{4}{3}n^3 + \frac{5}{3}n + 1} = \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1 + \frac{2}{n^2} + \frac{1}{n^3}}{\frac{4}{3} + \frac{5}{3n^2} + \frac{1}{n^3}} = \frac{3}{4}$$

- 8 (1) C_1 と C_2 の接点を T , $\alpha = \angle PBT$ とする. C_1 および C_2 上の弧について, $\widehat{AT} = \widehat{PT}$ であるから

$$a\theta = \frac{a}{4} \times \alpha \quad \text{ゆえに} \quad \alpha = 4\theta$$

BT の x 軸のなす角が θ であるから

$$\begin{aligned}
 \vec{BP} &= \frac{a}{4} (\cos(\theta - \alpha), \sin(\theta - \alpha)) \\
 &= \frac{a}{4} (\cos(-3\theta), \sin(-3\theta)) \\
 &= \frac{a}{4} (\cos 3\theta, -\sin 3\theta)
 \end{aligned}$$



$$(2) \quad OB = OT - BT = a - \frac{a}{4} = \frac{3}{4}a, \quad \angle AOB = \theta \text{ であるから}$$

$$\vec{OB} = \frac{3}{4}a(\cos \theta, \sin \theta)$$

上式および (1) の結果から

$$\begin{aligned} \vec{OP} &= \vec{OB} + \vec{BP} \\ &= \frac{3}{4}a(\cos \theta, \sin \theta) + \frac{a}{4}(\cos 3\theta, -\sin 3\theta) \\ &= \frac{a}{4}(\mathbf{3 \cos \theta + \cos 3\theta}, \mathbf{3 \sin \theta - \sin 3\theta}) \end{aligned}$$

$$(3) \quad \vec{OP} = (x, y) \text{ とおくと, (2) の結果から}$$

$$\frac{dx}{d\theta} = -\frac{3}{4}a(\sin \theta + \sin 3\theta), \quad \frac{dy}{d\theta} = \frac{3}{4}a(\cos \theta - \cos 3\theta)$$

$$\begin{aligned} \text{したがって} \quad \left(\frac{dx}{d\theta}\right)^2 + \left(\frac{dy}{d\theta}\right)^2 &= \frac{9}{8}a^2(1 - \cos 3\theta \cos \theta + \sin 3\theta \sin \theta) \\ &= \frac{9}{8}a^2(1 - \cos 4\theta) = \frac{9}{4}a^2 \sin^2 2\theta \end{aligned}$$

求める距離を s とすると, $\frac{3}{2}a|\sin 2\theta|$ の周期が $\frac{\pi}{2}$ であることに注意して

$$\begin{aligned} s &= \int_0^{2\pi} \sqrt{\left(\frac{dx}{d\theta}\right)^2 + \left(\frac{dy}{d\theta}\right)^2} d\theta = \int_0^{2\pi} \frac{3}{2}a|\sin 2\theta| d\theta \\ &= 4 \int_0^{\frac{\pi}{2}} \frac{3}{2}a \sin 2\theta d\theta = \left[-3a \cos 2\theta\right]_0^{\frac{\pi}{2}} = \mathbf{6a} \end{aligned}$$

解説 (2) の結果は,

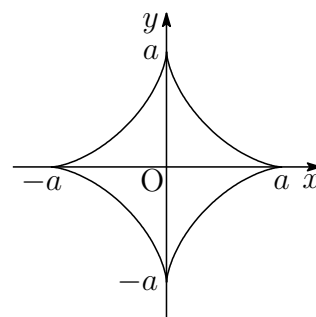
$$\vec{OP} = a(\cos^3 \theta, \sin^3 \theta)$$

となり, その軌跡はアストロイドである.

$\vec{OP} = (x, y)$ とおくと

$$\begin{aligned} \left(\frac{dx}{d\theta}, \frac{dy}{d\theta}\right) &= a(-3 \cos^2 \theta \sin \theta, 3 \sin^2 \theta \cos \theta) \\ &= 3a \sin \theta \cos \theta(-\cos \theta, \sin \theta) \\ &= \frac{3}{2}a \sin 2\theta(-\cos \theta, \sin \theta) \end{aligned}$$

$$\text{ゆえに} \quad \sqrt{\left(\frac{dx}{d\theta}\right)^2 + \left(\frac{dy}{d\theta}\right)^2} = \frac{3}{2}a|\sin 2\theta|$$



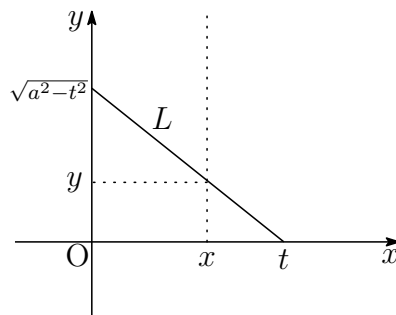
アストロイド (astroid) の x 軸および y 軸に関する対称性により

$$\begin{aligned} s &= 4 \int_0^{\frac{\pi}{2}} \sqrt{\left(\frac{dx}{d\theta}\right)^2 + \left(\frac{dy}{d\theta}\right)^2} d\theta \\ &= 4 \int_0^{\frac{\pi}{2}} \frac{3}{2} a \sin 2\theta d\theta = 3a \left[-\cos 2\theta \right]_0^{\frac{\pi}{2}} = 6a \end{aligned}$$

補足 長さ a の線分 L の両端が x 軸上および y 軸上を動くとき, L の包絡線 (L の通る領域と通らない領域の境界線) を求める.

右の図のように L が $x \geq 0, y \geq 0$ にあるとき, L 上の点 (x, y) について

$$y = -\frac{\sqrt{a^2 - t^2}}{t}x + \sqrt{a^2 - t^2} \quad \dots (*)$$



が成立する. ここで, x を固定し, y を t の関数とすると

$$\frac{dy}{dt} = \frac{a^2}{t^2 \sqrt{a^2 - t^2}}x - \frac{t}{\sqrt{a^2 - t^2}} = \frac{a^2 x - t^3}{t^2 \sqrt{a^2 - t^2}}$$

点 (x, y) が包絡線上にあるとき, $\frac{dy}{dt} = 0$ であるから $t = a^{\frac{2}{3}}x^{\frac{1}{3}}$ これを (*) に代入すると

$$y = -x^{\frac{2}{3}} \sqrt{a^{\frac{2}{3}} - x^{\frac{2}{3}}} + a^{\frac{2}{3}} \sqrt{a^{\frac{2}{3}} - x^{\frac{2}{3}}}$$

$$\begin{aligned} \text{したがって} \quad y^2 &= x^{\frac{4}{3}}(a^{\frac{2}{3}} - x^{\frac{2}{3}}) - 2a^{\frac{2}{3}}x^{\frac{2}{3}}(a^{\frac{2}{3}} - x^{\frac{2}{3}}) + a^{\frac{4}{3}}(a^{\frac{2}{3}} - x^{\frac{2}{3}}) \\ &= a^2 - 3a^{\frac{4}{3}}x^{\frac{2}{3}} + 3a^{\frac{2}{3}}x^{\frac{4}{3}} - x^2 \\ &= \left(a^{\frac{2}{3}} - x^{\frac{2}{3}}\right)^3 \end{aligned}$$

$$\text{よって} \quad x^{\frac{2}{3}} + y^{\frac{2}{3}} = a^{\frac{2}{3}}$$

一般に, L の両端が x 軸上および y 軸上を動くとき, 上式は成立する.